委員長（冒頭あいさつ）

皆さんおはようございます。

委員長を務めております長崎市長の鈴木でございます。今日はですね皆様朝からですね、第２回の起草委員会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

前回の第１回の起草委員会では長期化するウクライナ情勢、あるいは、深刻化いたします中東情勢、そういった情勢に関する懸念の声もありましたし、またそういう中でですね、核兵器をめぐる国際情勢が一層悪化しているということ。そういう中での被爆者、「長崎を最後の被爆地に」という思い、これをしっかり国際社会と共有することが大切である。そういったご意見を皆様方から頂戴したところでございます。文案につきましては、こちらの方でたたき台を作成させていただきましたので、後ほど読み上げさせていただきたいというふうに思います。混迷を極める国際情勢の中で、広島、長崎に続く第三の被爆地を決して出さないと、絶対につくってはいけないと。長崎を最後の被爆地に、そういう強い思いを発信していく、そのための文案になっているというふうに思います。今回作成しました文案をもとにですね、まず今日はご議論いただき、そこで得られましたものをですね、そこで得られましたインプットですね、もとにさらに文案にしていって、次回、来月ですねまた第３回起草委員会を行いますので、そのときにですね、また皆様とご議論させていただければというふうに思います。そういう意味でですね、今日が有意義な会議となり、そして貴重なインプットをいただきたいというふうに思いますので、是非ですね、忌憚のないご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。それでは今日も長時間になりますが、よろしくお願いします。

先ほど事務局からも申し上げましたが今回お配りしております平和宣言文案を基に委員の皆様からですねご異議ご意見をいただきたいと思います。まず私の方から平和宣言文案を朗読させていただきたいと思います。それでは朗読いたします。

（文案の朗読）

委員長

はい。以上でございます。それでは、既にこの平和宣言文案を事前に送付し、ご覧になっていると思いますので、それぞれの委員の方々からご意見をいただきたいと思います。それで委員から時計回りにお願いします。

委員

私の意見を述べさせていただきます。最初に１行目から 13 行目までの福田須磨子さんの詩の引用ですけれども、大変訴える力が感じられて、良い選択ではないかなというふうに思いました。この文章についての解説が続きでありまして、最後に「ノーモア・ヒロシマ　ノーモア・ヒバクシャ」について書いてあるんですけれども、これは山口仙

二さんの言葉で、被爆者のメッセージを 2 人分出すかなという気もちょっとしました。福田須磨子さんは名前が入っていますけど、山口仙二さんが名前はなく入っているので、長崎からの普遍的なメッセージと捉えることができるという意味であればいいのかなという気もします。皆さんのご議論をいただければと思いました。

それから、次のページの１行目、35 行目ですけれども、「第３回締約国会議にオブザーバー参加し」というのがあるんですが、30 行目ではですね、核兵器廃絶に向けて勇気をもって舵を切るべきだと言い切っている割にはですね、オブザーバー参加っていうのが、なんかこれでいいのかよっていう感じもするので、ここに「せめてオブザーバー参加し」くらいにするか、あるいはもう「オブザーバー」を取って、「締約国会議に参加し」にするか、その方が態度を明確にできるのではないかなと感じました。

あと、49 行目からの、長崎の若い世代の話ですけれども、若い世代が被爆者たちと手を携えてっていうのは全然異論はないし、私も前回の会議の中で、平和の文化という話を少ししましたが、「11 月の平和の祭典、地球市民フェスを開催」っていうのが、これは今計画中の話だと聞いておりますし、まだ成果が出ている話でもないので、これをわざわざここでこれだけ 4 行も使って言うのかなという感想をもちました。他に長崎だと、規模は小さいですけれども、永遠の会の若手部会というのが、がんばっていて、25 歳以下の人たちも活躍を始めておりますし、私が関わりましたワン・ヤング・ワールドのナガサキピース・プレナー・フォーラムというのも、若手の平和の祭典として開催されておりますので、そういう感想をもった次第です。

最後に、59 行目で、「長崎は、広島、沖縄、福島をはじめ、平和を築く力になろうとするすべての人たちと連帯し」なんですけれども、実際に「広島、沖縄、福島」っていうキーワードで連帯っていうのはあるんですが、福島を「平和を築く力」でくくっているのかな、と思った次第です。私は以上です。

委員

私の一般的な感想といたしましては、非常にメッセージがはっきりしていて、よくまとまったドラフトというのが、最初の読後感でございました。あまり仰々しく訴えることもなく、淡々と大事な、しかも非常に重いキーワードが組み込んで、非常に、英語にしたときも、全体として、力のあるメッセージかなというのが、私の第一印象です。その上で、いくつか気づいたことを申し述べさせてください。私の語感の問題かもしれませんが、16 から 17 行目の、「被爆者は、時が経つにつれ、様々な病気を引き起こしたり」というのはちょっと日本語として変かなと思って、「病気を患われたり」とか、そういうふうな言葉の方がいいのかなと思いました。それから、23 から 25 行目までの、現状の国際情勢にかかるところですが、「大きな戦闘が同時進行する中で」、ここまで客観的な事実なんですが、その後の言葉が、「核兵器の使用をためらわない姿勢を示し続けている」というのは、ロシアについては全くそのとおりですが、イスラエルについ

てはイレギュラーなかたちで、本来、存在そのものを認めていない国が、閣僚や国会議員が政策の１つだというふうなことを言っている、という現実もありますので、それが現実ですよね、そのあたりをちょっと表現は工夫したらいいかなと思います。例えばこれがいいというわけではありませんが、２つ一緒に言うんでしたら、「核兵器使用も政策の１つという考えが相次いで示されています」というふうにまとめるとすれば、それは論理的には矛盾がない。言うべきかどうかは吟味する必要があるかと思います。それと 42 行目に飛びますが、「今、私たちは、誰一人取り残されることなく、ずっとこの地球で暮らし続けられる」は、地球で暮らすしかないというのは現実ですが、「地球で安心して」とか、「環境を破壊することなく」と何か一言入れた方がいいのかなというふうに思いました。大事なキーワードは、やはり 47 行目の「人類が生き残るための絶対条件なのです」。ここはとても大事な言葉なので、この言葉が光るような、全体としてまとめるといいかなというふうに感想をもちました。それから、先ほど委員もご指摘になった、このイベントのところも、やや突然な感じがするので、英語で国際的に取材されることを考えると、長崎の方は分かるけど、他の人は、どれほどのイベントなのかっていうのはわからないままなので、歴史にこの宣言文が残ることを考えると、少し違う表現があってもいいかなというふうに思いました。　もう１点は、これは委員と同じですが、多分いろんな時間の制約も字数の制約もあるとは思いますが、長崎、広島、沖縄と福島は並列するだけではわかりにくいので、何か言葉の追加が必要かなというふうに思った次第です。

委員

　私も読んでみて、大変ご苦労されて、よくまとめられている案だと思っております。その中でいくつか、私の意見としてあげたいと思います。1 つはですね、先ほど市長が、「長崎を最後の被爆地に」という言葉を発せられたんですけれども、その言葉が入っていないんですね。だからそういった点ではやはり入れてほしいなと思います。それから 24 行目、「核兵器の使用をためらわない姿勢を示し」ということで、やはり具体的に、例えばロシアが戦術核使用の訓練をしているとか、そういったことも具体的にちょっと入れたらどうかなと思います。それと、やはり「核兵器の使用をためらわない」という、例えばそれを「威嚇」というふうに文章をまとめられたらどうかなと思います。それから 36 行目ですね、核兵器禁止条約の参加、批准なんですけれども、批准して、核兵器廃絶のリーダーシップを政府に求めます、ということを、やっぱり入れてほしいなと思います。そして、その 36 行目「そして、憲法の平和の理念を堅持する」のところで、世界的に今、軍拡競争があっているわけですね。そして、もう今年で 9 年目、ずっと増加していると。そして、日本円にして 300 兆円を超える軍事費が世界で使われているし、日本もそれに負けず、そういう平和憲法をもって、憲法 9 条では不戦と戦力の放棄をうたっているわけですけども、世界で 9 位になっていると。そういった中で、やっぱり軍

事同盟とか、軍事費の強化ではなくてですね、憲法の平和の理念の前に入れてほしいと思います。それから 39 行目の「被爆者援護のさらなる充実」ということですけれども、私たち日本被団協は、基本政策の中でも常に、そして厚労省に対しての要求書についても、あくまでもやっぱり「国家補償の援護法」制定を求めているということを書いてほしいなと思います。それから、46、47 行目で、「人間と核兵器とは共存できない」ということを、はっきりとうたってほしいなと思います。それと、ちょっと遡りますが、43 行目のＳＤＧｓということで、これが本当に皆さんにわかるのかなと思って、もう少し日本語で書いたらどうかなということです。それと、アメリカは、この前５月 14 日に２回目の核実験をしたわけですけれども、日本のほとんどの自治体は非核宣言をしているわけですね。しかし、その中で、アメリカに対して、抗議の声明文を出したというのは、ほんの僅かだろうと思うんですよ。長崎県でも半分も達しないわけですね。そういった中で、長崎市が、全国にやはりそういったことを呼びかけていくっていうかな、そういうことをしてほしいなと思っております。以上です。

委員

この案をいただきまして、長崎市内小中高、みんな式典は見ているわけです、聞いています。それで私は声を出して読みました。子どもたちは、この文章は持っていないですよ。だから、書き言葉とそれから耳から入ってくる言葉。子どもたちはみんな、耳から聞いています。だから、まずその聞いていてわかるような文章表現は、私はいっぱいいるんじゃないかなっていうふうに思っています。それを思ったのが、例えば 22 行目です。「道徳的な規範」っていう言葉が書いてあるんですけれども、この「道徳的な規範」とはどんなことだろうなって思って、実は辞書を引いて調べてみました。そしたら、社会生活の秩序を保つための定評とか色々書いてありましたけれども、非人道性を訴え続けていくという、そういうふうな言葉で、道徳的規範っていうのはどうなのかなっていう気持ちがしました。それから、25 行目です。核戦力を急激に増強させる中国という名前が出ていますけれども、これは中国だけには限りませんね。アメリカを含めてだから。私は、核保有国というふうに置き換えたらどうなんだろうかなと思います。中国だけが増強させているのかなっていう気持ちがしました。それから、今、委員もおっしゃいましたけれど、ずっと私たちは、「長崎を最後の被爆地に」という言葉は使って参りました。だから、「長崎を最後の被爆地に」という言葉はどこかに入れてもらいたいなと思いました。それから 35 行目、オブザーバー。これも、オブザーバーでどうするのという気持ちがしたわけです。だからここもちょっと表現をどうかできないかなと思いました。それから 36 行目「憲法の平和の理念」を「平和憲法」っていうふうに置き換えられないものかなと思いました。「憲法の平和理念を堅持する」ではなくて、「平和憲法」というふうに、はっきりできないのかなと思いました。それから、子どもたちにお話しするときに、核兵器は絶対駄目ですって、委員が今出してらっしゃるポスターがあ

りますよね、子どもの１番やはりインパクトに繋がるのが、「存在する限りは使われる」。あの言葉ですよ。「存在する限りは使われるから駄目」という、ポスターの見出しに大きく出ているんですけれども、あれは子どもたちにとってもわかりやすいと思いました。それから、永井隆先生の言葉の中に、「子どもたちよ、あの日に死んでいった友達のことを絶対に忘れるな」とね。私たちはそういう気持ち、子どもたちに訴えるという、「あのとき声も発することなく死んでいった人たちの気持ちを忘れるな」。これは永井隆先生がおっしゃった言葉で、だからやはり、「長崎を最後の被爆地に」というのは、そういう思いがいっぱい入った長崎の平和宣言だろうっていうふうに私は思っています。以上です。

委員

今回の案を見せていただきました。本当に皆さん口を揃えておっしゃっているように、非常にまとまりも良く、そしてインパクトもある内容だと感じました。いくつか本当に細かいところで、私なりの意見がありましたので、いくつか述べさせていただきます。まず、この詩とその解説ですが、残された者の苦難ということで書かれているわけなんですけれども、原子爆弾はまず何よりも大量殺戮兵器ですので、まずサバイバーじゃなくてヴィクティムのことも暗示するような表現があった方がいいのかなと思って、例えば、16行目の福田さんのところですが、「福田さんをはじめとする被爆者は、家族の命を奪われ、自身も」とかそういった言葉を入れたらどうかなとちょっと感じました。それから、20行目の「ノーモア・ヒロシマ」のところは、やはり幸福の対極にあるものとしてのノーモアなので、例えば32、33行目の後にもってこれないかと思います。最初の部分はもう福田さんオンリーでいって、このあたりでノーモアが入れば、文脈的にも繋がるかなというふうに感じました。それから25行目、先ほどから問題になっていますが、22・23・24・25行目あたりは、最初の「私たち人類は」が主語になるべきで、そう考えていくと、先ほど言ったように、姿勢を示し続けているというところが、齟齬をきたしますので、核兵器使用の危機に直面しているとか、要するに人類が危機に直面しているとか、そういうふうな呼応関係をきちんとつくることが必要かと感じました。それから26行目ですけれども、核には核の考えのもと、というのが原因であって、そして、その原因によって、中国、北朝鮮の軍備増強という結果があるので、核には核の考えのもと、というのを、それだけではなくの後にもってきて、先ほど言いましたように、例えば、中国や北朝鮮がやっているけれども、世界中がますます危険な方向に軍備を増強している、というふうな流れにならないかなと感じました。それから29行目ですが、核の傘の下にいる国ときていて、その次の文では「一人の人間としてその痛みをあなたの良心で感じてください」となっています。「国」という呼びかけなんですが、次の部分では「あなた」への呼びかけになっているんですね。ですからここは、両者をきちんと整合させるために、国の指導

者、国というのを国の指導者と入れたらどうかと感じました。それから30行目の「勇気をもって」は、必要ないかなと感じました。それから先ほどからご指摘のあっている36行目のところですけれども、ここは平和憲法の理念を政府に求めているので、現況の政府の姿勢というのは軍拡に走っていますから、ここのところ、「いたずらな軍拡、軍備の拡大に走るのではなく」とか、そういった言葉を入れていただきたいと感じました。それから46行目ですが、「人類が生き残るために絶対条件なのです」というところですけれども、せっかく頭に福田須磨子をもってきたので、例えば、福田須磨子が示唆したように、「核戦争が起これば、国家は国民を救えないのです」とか、そういった言葉も入るとまた強まるかなと思いました。それから、52行目のところでは平和の文化について述べてありますが、平和の文化の２つの側面として、文化活動との繋がりというのと、もう１つやはり対話の文化というのがあるかと思うんですが、例えば53行目の冒頭に、「平和の文化は対話の文化でもあります」とか、そういった言葉があるとまた平和の文化の広がりというのが示せるのではないかとそういったところを感じました。以上です。

委員

まずはですね、この素晴らしい平和宣言案をまとめてくださった平和推進課の皆様を労うとともに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私としてはほぼ完璧な文案だと思っておりますが、その上で２点提案をさせていただきたく存じます。まず、1 行目の「原爆を作る人々よ」という呼びかけのところです。ここのところを例えば対比させて、「核保有国のリーダーは原爆を落とす人々になる」というふうに警告を発するのはどうかなというふうに思いました。そして例えば「原爆を落とす人々」というワードをどこに入れるかというと、自分でも考えてみたんですけど、例えば 23 行目から 27 行目のところ、ここが核保有国のリーダーたちに、ある意味名指しで訴えているところかなと思います。ですので、ここに思い切って「核保有国のリーダーの皆さんは原爆を落とす人々になり得る」というふうに釘を刺すのはどうかなと考えております。このワードですけれども先ほど委員もおっしゃっていたように、核兵器廃絶研究センターの核弾頭のポスターですね、「存在する限りは使われる」そういうニュアンスともかけて「原爆を落とす人々になりうる」というふうに釘を刺すことで、改めてこの冒頭の福田須磨子さんの詩を思い起こさせる効果があるのではないかなと思っております。そして次の 53 行目のところにあります、「国境や宗教、人種、性別などの違いを超えて」というところです。ここに「世代」という言葉を入れてもいいのではないかなと思いました。第 1 回の起草委員会のときに私が「全ての人が平和をつくる主体者たれ」ということを申し上げたんですが、そう考えると、若者をはじめとして、全ての人、全ての世代が平和をつくる主体者にならなければ世界平和は実現しないと考えています。ですので、例えば国境や宗教、人種、性別、世代を超えて聞いてもらいた

い平和宣言ですので、ここに人種、性別の後とか、順番はどこでもいいかなと思うんですが、この世代という言葉を入れて例えば「国境や宗教、人種、性別、世代などの違いを超えて」とする方がより全ての方に届いて、また自分事として考えてもらえる平和宣言になるのではないかなと思いました。私からは以上です。

委員

はい。冒頭の福田須磨子さんの詩の導入もすごくいいなと思いました。誰に言っているのかも明確ですし、非常に突きつける迫力のある、また非常に選び抜かれた言葉で、戦後の人の被爆者の状況とか信条がにじんでくるような、訴える力のある詩でいいと思います。15 行目で、福田さんが誰なのかというのがわかりにくいので、最初に「訴え続けた長崎の詩人福田須磨子さんがつづった作品です」とか、詩人、長崎の詩人であるという一言を入れればどうかなと思います。それから 22 行目の、先ほど委員からも指摘がありましたけど「道徳的な規範」というのがちょっと「人道的な規範」の方がまだスッとくる感じがいたします。それから委員もおっしゃいましたけれども、やはりロシアとイスラエルで同じではないですね。プーチンは昨日、少し今は使わないみたいなことを言っておりましたけれどもロシアについては使用の威嚇というのは非常に強い。一方で、イスラエルは一部の閣僚が言いまして、ネタニヤフ氏がまず敵基地に走るという状況で少し表現は分けないといけないかなと思います。それから、もう１つ言うと、米国の議会でも、議員とか政府の高官がイスラエルの武器供用に絡んで広島・長崎の原爆投下について「戦争を終わらせる正しい判断だった」ということを言われたという、原爆を正当化する発言が原爆投下国からあったということで、日本政府も非常に残念というふうなメッセージを出しましたし、被爆者団体も抗議をしました。やっぱり、こういった認識は、自国が正しいと判断すれば、核兵器は使用できるという認識に繋がると思いますが、良い核兵器も悪い核兵器もなくて、全て廃絶するというのが被爆地の願いだと思いますので、これに対しても、やはり原爆投下正当化への認識というものに対して問題であるというようなくだりが一文、ここのあたりで入ってもいいのではないかと思います。今非常に核兵器の使用が危機だ、という中で、世界で広島・長崎の原爆投下への認識が、問われている状況になっているんじゃないかなというふうに思いました。あとは、委員もおっしゃいましたけれども、36 行目ぐらいですかね、平和憲法のあたりですが、やはり日本は軍拡にやっぱり進んでいるという状況があります。様々なところで、例えばトマホークを米国が日本に売却するとかですね、それで訓練が始まるという状況もありますし、武器開発、輸出という非常に危機的な状況が日本にあるというところでは、やはり一言ここに「軍拡ではなく」とか、何か詳しくは多分書けないと思いますけれども、軍拡ではなくて、「緊張緩和に向けた外交努力」というような表現が入ればいいと思います。最後に福島のところも、若干確かにここは分ける、福島を入れてもらいたいという気持ちはありますので、「沖縄と、平和を築く力になるとする人々、そして

核の被災地福島とも連携し」とかですね、若干分けて加えてはどうかと思いました。以上です。

委員

はい。もう色々被る部分がたくさん出て参りますけれど、まず先ほど委員からも出ましたけれど、20 行目の「ノーモア・ヒロシマ」のこのくだりで、このワードはやはり「長崎を最後の被爆地に」というワードはやっぱり長崎の平和宣言のキーワードになるんだろうと思いますから、ノーモアのところはこの上と被る部分もありますので最後に持ってきて、それを締めの言葉に使うぐらいのところでした方が長崎平和宣言の特徴は出るんじゃないかなという感じがします。それから、32 行目とか 37 行目で外交努力が必要だと、すべきだということを述べていただいていますけれども、前も申し上げましたとおり、大使とかあるいは閣僚レベルの会議を何回しても、もう全然進まないんですよね。だから、やはり核保有国、特にアメリカ、中国、ロシアの、やっぱりトップの会談を何とか実現するようなことをしないと、現実的な効果がなかなか出てこないんじゃないかというふうに思いますので、やはり日本のリーダーは、そういった核保有国トップの会談の実現に向けた動きをしてほしいという要望を入れた方が、リーダーが、日本の首相がアメリカ・中国・ロシアのトップの会談ができるような仕掛けといいますか、そういう動きをしないと、なかなか普通の会議を何回しても実現しないというふうな感じがします。それから、これも出ていましたけれども、49 行目のところですね。先ほど色々出ていまして、私もここを読んでいてわかりづらいというのはあって、1 つは中身がよくわかってないとこもあるんですけれど、言葉がちょっと多すぎるんですよね。ここから 4 行ぐらいあって、120 字ぐらいの言葉になっていますから少し整理しないと 120 字にもなると何がどこにかかっていくのかというのが、書いてあるのを読むときはわかるのですけれど、聞いていると、わからなくなりますから、どこかフレーズを組み替えて、接続詞でつなぐとか、そういうことをされた方がより伝わるかなというふうに思います。中身はちょっとわかりませんので。はい。とりあえず以上です。

委員

はい。ありがとうございます。これだけ皆さん、全員の意見をまとめられるというのはすごく大変なことだったと思うんですけれども、そこはありがとうございました。とてもすっきりしていて本当に心を揺さぶられるような訴求力というのをすごく感じました。皆さんもおっしゃっていましたけれど、順にお伝えしようと思います。まず、特に 48 行目から 52 行目までの若い世代について触れていただけたところは意見を取り入れていただいて感謝申し上げます。20 行目の「ノーモア・ヒロシマ　ノーモア・ナガサキ　ノーモア・ウォー　ノーモア・ヒバクシャ」という 4 つの言葉が連なって、しかも鈴木市長の力強い声で訴えるというのは本当に多世代の子どもから大人まで響くと

感じました。それが 20 行目の前半にあるというのは新しいと思ったのですが、福田さんの話の流れである方がいいのか、それか、57 行目の「この難局に立ち向かっていきましょう」というとこの後にもってきた方がもっと伝わるのかっていうのを皆さんと議論できたらと思います。そして次の 23 行目からは３行になっているので、ここも普遍的な公的な資料として伝えるときに固有の国を出すのではなくて、まず核保有国へのメッセージというところで、その後に個別のロシアですとか、イスラエルというようなかたちで分けた方がいいと感じました。続いて 41 行目から 47 行目までは、ここはその人類や地球規模のレベルでものを考えるという視点と、48 行目からは 56 行目まで、個人として長崎の人たちが何ができるか、等身大で考えているというのがまとまっていますので、本当に今ここの長崎らしさっていうのが表現できていると思います。43 行目のＳＤＧｓというのは小学校、中学校、高校生が学んでいるところなので、すごく身近な言葉だと感じました。その中に、特に「若い世代が希望の光です」というのがありますけれど、やはりこの希望というのはすごく大事なキーワードだと思います。改めて例えば、平和祈念像の裏のメッセージ、制作者のメッセージを見たときに最後に「希望の象徴である」と書いてあったんですね。なので、本当に原爆を落としてはいけない、繰り返してはいけない、そして「長崎を最後の被爆地に」というのは大事なことであるけれど、併せて、希望をもって若い人たちと一緒に、しかも若い人だけに託すのではなくて被爆者の方、頑張ってこられた被爆者の方と一緒に多世代でやっているというのが今をすごく象徴していると思います。今回ワン・ヤング・ワールド分科会、ナガサキピース・プレナー・フォーラムに出たときに、国連事務次長の中満泉さんも国の若い人たちの取り組みが希望であるっていうふうにおっしゃっていましたし、そこに参加していた学生っていうのは、屈みこむようにしてメモをしていて、目がどんどん変わっていったので、こういうふうに対話が、１つのイベントということではなくて、対話で世界の人と接点をもつことで変わっていく、それが発信力になっていくというのを感じましたので、ここの４～５行、48 行目から 52 行目は、是非このまま残していただけたらなというふうに思います。先ほど委員からもありましたけれども、「国境や宗教、人種、性別などの違いの他にその世代を超えて」というところが今を表していると思いますので、そこを加えていただけたらと思います。58 行目 59 行目、今の前後の流れだと長崎、広島、沖縄、福島ってふうになっているんですけれども、それが平和を築く力っていうことだと、唐突感があったので前後に説明をするか、それか平和ということであれば長崎、広島、沖縄というふうにまとめるかは皆さんと考えていけたらと思います。以上です。

委員

はい。ありがとうございます。私もちょっと後半部分の方が意見は多いんですけれども前半部分で言いますと、先ほどから皆さんがおっしゃっている 20 行目の「ノーモア・ヒロシマ」の文章のところはちょっと唐突感を感じたので、非常に重要な言葉だと思う

ので、もう少し後半というか本当に最後に一番言いたいメッセージとしてもってくるということには本当に賛成をいたします。それから 28 行目の「広島、長崎に続く第三の戦争被爆地をつくることは絶対にあってはなりません」という言葉は長崎からの非常に強い思いだと思うんですけれども、これもちょっとこの文章の場所だとちょっと伝わりにくいといいますか、世界の指導者の人たちに訴えている文面の中で自分たちの思いが急に入っているような感じがしてしまったので、例えばその次の文章の「核廃絶に向けて舵を切るべきです」の後に入れて、「だからこそ被爆地を訪問し」というかたちで私たちの土地に来て、それを見てほしいという思いと繋げるとか、あるいは日本政府に訴える前の文章での繋ぎにするとか、少し 28 行目の思いが伝わるところにもってきた方がいいのではないかなというふうに思いました。41 行目以降のところなんですけれども、まず「世界中の皆さんは地球という同じまちに住む地球市民です」と言う訴えかけを、聞いている一般市民の方に言っていると思うんですけれども、一番巻き込みたい相手だとは思うので、その後のところがちょっと巻き込まれる感じがあまりないといいますか、ＳＤＧｓの話が先ほどありまして、今おっしゃったみたいにＳＤＧｓって今子どもたちにとってはＳＤＧｓネイティブなんですけれども、逆に結構日本がＳＤＧｓはよく言うんですけども、世界的には今はそんなに使われてないっていうところもあったりですとか、あとＳＤＧｓの中にそもそも「平和な公正」と、平和という項目もあるので、その中に平和に対しての部分が組み込まれていることを思うと、少しこの文脈の中で使うワードとしては難しいかもしれないと思いました。ただ訴えたいことは非常に理解ができて、一度核戦争が起こってしまうと全て無になってしまうっていうことは本当にそうだと思うので、うまいかたちで入ってくるといいなというふうに思っています。48 行目から、「若い世代は核兵器のない世界へ向けてすでに動き始めています」という言葉で始まると、その前に、一般市民の方たちにＳＤＧｓをやっていても核戦争が起こっちゃったら世界自体がなくなってしまうよ、ということを訴えかけて、一方若い世代は、と言っているような感じがするので、地球市民の中に若い世代も含まれていると思うので、ここが対比されているような言い方にならない方がいいのかなというふうに思いました。ただ 48 行目以降の若い世代の方たちの活動についてお話しするのは非常に重要なことだと思っていまして、私もワン・ヤング・ワールド、長崎ピース・プレナー・フォーラムに出させていただいてこれだけ若い人たちが将来の地球のために考えて動こうとしているということは非常に勇気になりましたし、それって日常的に生きていると気付けない部分だったりすると思うんですね。なので、長崎はじめ、本当に平和に向けて動いている若い世代がいるっていうことは、必ず伝えた方がいいと思っていまして、地球市民フェスの位置づけについても先ほどからありますけれども、そこに特化するのか、そうでなくてもいろんな人たちが動いてるということはしっかりと伝えた方がいいかなというふうに思っています。ただ、この文章の中で 51 行目から 52 行目にかけて、「平和について考え行動する平和の文化を長崎から発信するための挑戦に取り組んで

います」というふうにあるんですけれども、若い人たちは特に平和の文化を発信するためにやっているわけではなくて、本当に平和への願いを表現するためにやっていて、それが結果的に平和の文化になっていくっていうことだと思うので、この平和の文化の説明の仕方はきちんとした方が、若い人たちの本当に純粋な思いがもっと表現されていいのかなと、文化をみんなでつくっていくというかたちに変えた方がいいのではないかなっていうふうに感じました。全体としてとても大切なことをメッセージとして発信しているからこそ、ちょっとした順番とか言い回しのところで変わってくる部分もあるのかなというふうに思いましたので、少し細かい点もあったんですけども、意見させていただきました。以上です。

委員

第１回目の起草委員会で各委員が述べられた意見というものが１つになったこの素案は核兵器の非人道性や長崎の思い、また地球市民の役割などが踏まえられており、全体として非常にいい内容になっていると考えています。特に前回の起草委員会で出ておりました福田須磨子さんがつづった詩を用いて、原爆が命、体、暮らし、心の被害をもたらし、今もなお被爆者を苦しめていること、またそのような中にあっても被爆者は長崎を最後の被爆地にするために活動し続けていることを訴えており、非常にいい内容になっているというふうに考えています。

私の方からは３点コメントさせていただきます。１点目です。皆さんがおっしゃられていますが、20行目の「ノーモア・ヒロシマ　ノーモア・ナガサキ　ノーモア・ウォー　ノーモア・ヒバクシャ」についてですが、ノーモアのフレーズは「長崎を最後の被爆地に」という内容を網羅するものであり、前回の起草委員会で多くの委員から挙がっていた「長崎を最後の被爆地に」というメッセージを伝えられることになると思いますので、是非入れていただきたいと考えています。

ただこのメッセージを入れる場所についてですが、山口仙二さんのメッセージということもありますし、今年の平和宣言の内容のまとめ、あるいは一言で表す文言として57行目あたりの最後の方にもってきた方がいいのかなというふうに考えています。いただいた素案には核兵器廃絶を訴える内容だけではなく、昨今の厳しい世界情勢が踏まえられており、ノーモアの内容と一致するかなというふうに考えたからです。

２点目です。41行目から56行目にかけて地球市民に関する記述があり、若者の平和活動についてもたくさんの言及があることは若者の１人である私としましても大変嬉しく思っております。49行目から50行目にかけて、「長崎でも若い世代が平均年齢85歳を超えた被爆者たちと手を携えて」とのフレーズがありますが、「若者も被爆者も全ての地球市民が一体となって」というキーワードをこのパラグラフで入れるとより良くなるというふうに考えています。といいますのも、本素案には、主に前半で被爆者の活動が、後半に若者を中心とした活動が書かれていますが、解読する中でそれぞれの

活動が別個にあるような印象を多少受けました。長崎の若者と被爆者が一体となって活動することは大変意義があることです。しかし、核兵器廃絶は被爆地だけの取組みでは無理で、「地球市民」としてみんなが手を取り合ってする必要があり、53行目にありますように一人ひとりの力が必要です。そのため、55行目にあります、「私たち地球市民が声を上げ、力を合わせて」の箇所において、力を合わせて一体となってというニュアンスがよりよく伝わるかたちで、あるいは各委員がおっしゃっていましたように、「世代を超えて」という文言を入れるとより良くなるというふうに考えました。

３点目です。これも先ほどから皆様言われておりますが、58行目から59行目にかけての「長崎は広島、沖縄、福島をはじめ、平和を築く力になろうとするすべての人たちと連帯し」の文言において、福島が戦争ではなく東日本大震災のため、ということが分かるように、福島の前に「放射能の被害を受けた」という内容を入れる、または、福島については他の３県と並列するのではなく、別の一文にするなどした方がいいかなというふうに考えました。以上です。

委員

はい。ありがとうございます。まず取りまとめ大変ご苦労されたと思います。非常に平易な文章で多くの委員の方もおっしゃられているように、やはりキャッチーな言葉がそれぞれにありますので、非常にストンと多くの人が、自分に近づけて考えることができるのではないかと思っていました。そのうえで、既に出てきたご意見もいくつかありますけれども、まず、冒頭に使われた福田須磨子さんの詩ですね、大変素晴らしいと思っています。まず、福田須磨子さんも繰り返すまでもないですけれども、やはり被爆と苦しみというのが８月９日その日だけではなく、戦後ずっと続く、そして生涯続くという、私たちここにいる長崎の人間にとって、もしかしたら当たり前のことかもしれませんが、おそらく世界の多くの人にとって被爆の苦しみというのはそこまで強いものだということはおそらく知らない情報だと思うんですね。ですので、そこを強調しても、しすぎることはないというふうに思います。その意味では16行から17行のところで、身体的な病苦のことが苦しみとして書かれているんですね。しかし、それだけではなく、あの有名な詩の「ひとりごと」でもそうですけれども、やはり貧困であったり、生活苦それから家族を失った苦しみ、それからトラウマ、そして精神的なものも含めて、あと社会的な差別ですね、こういったものも含めたその複合的な工夫を、という言葉を使うという意味ではないですけれども多層的な被爆者の苦しみということがもう少し、せっかく福田さんを引用するのであれば表現されるべきだと思います。関連して、福田さんのその詩の素晴らしさ、強さというのは、実は今回ドラフトを拝見して、私この詩全文をちょっと読んだ記憶がなかったので、改めて図書館に行って本を探して参りまして、皆様もご存じかもしれないですけど、これかなり長い詩の冒頭の一節なんですね、実は私先ほどから、話に出ている「ノーモア・

ヒロシマ　ノーモア・ナガサキ」のこの部分に、もしかしたらこの福田さんの「原爆を作る人々に」っていうのが詩のタイトルなんですけれども、これの最後のパラグラフがですね、むしろ力強いメッセージになるのかなというふうに思いました。ちょっとだけ４行なので読ませていただくと、「原爆を作る人々よ、今こそためらうことなく手の中にある一切を放棄するのだ。そこに初めて真の平和が生まれ、人間は人間として蘇ることができるのだ」という言葉なんですね、今回、いや前回ですね、前回の起草委員会の中で、やはり人道性という、人間に立ち返るというですね、そういったことは１つのキーワードで出てきたんじゃないかなというふうに思っています。つまり、核兵器というものは人間が人間であるためには不要なものだというふうに思うんですね。つまり、前回の起草委員会でオッペンハイマーの映画の話も出ましたが、オッペンハイマーが最初の核実験をアラモゴードで行ったときに、「我は死神なり」というような言葉を頭に浮かべたっていうような話も映画にも出てきます。つまり、使う側も人間でなくなってしまう。そして、よく被爆者の方がおっしゃる「人間らしく被爆者は死ぬこともできなかった」ということがあると思います。つまり、核兵器というものは人間性をあらゆる意味で奪うと、つくる側も、そして被害を受ける側も人間ではなくなってしまうといったようなニュアンスを、人間として蘇るべきだという福田さんの強い言葉というのは使えるのではないかなというふうに、使えるというとちょっと失礼な言い方なんですけれども、合致するのではないかなというふうに思いました。その上で「ノーモア・ヒロシマ　ノーモア・ナガサキ」の言葉が山口仙二さんの言葉でもありますし、同時に長崎の普遍的な常に使われるべきメッセージということで、もし使うのであれば、ここから外してもですね、あるいは最後にもってくると、別のかたちで登場させてもいいのかなという気はしました。何か今回、福田さんという、非常に長崎の被爆の実相の極めて鮮烈なその断面を詩として表した言葉をせっかく使うのであればそのエッセンスを、この全体の文の基盤のどこかに使いながら展開していくことができるのではないか、同時に苦難の中に希望も見出すというかですね、苦難の中だからこその人間の強さみたいなものも現れている、そういった宣言になっていけるのではないかなというふうに思います。

あとはかなりテクニカルな部分で、もう既にご指摘がありますように、24行目ですね、やはり「核兵器の使用をためらわない姿勢」は、主語が誰だか分からないので、もしロシア・イスラエルということを指しているのであれば、委員もご発言があったと思いますけれども、ロシアとイスラエルのケースがちょっとだいぶ違いますのでこれは分けるべきだというふうに思います。それから、福田さんのこの冒頭はやはり被害を受けた側から、核をつくる人々を強く批判しているという側面があります。しかし、一方で私はどうしてもこの29行目にありますけれども、核保有国、核の傘の下にいる国はということで、当然日本も含まれているわけですので、我々がこの高所からですね、お前たちは間違っているというふうに言うのではなく、ある種全ての人間が

核兵器を支持し、使う側に回ってしまう、そういったある種、核兵器への依存が全ての多くの国において深まっているという前提で何か我々はちゃんとやっているのに、こっちはちゃんとやっていないみたいな、一方的な批判にならないように、そういったところは文章の組み立てにしていくべきじゃないかなというふうに思っております。はい。なので、委員がおっしゃった原爆をつくる側から落とす側に誰でもなりうるみたいな、そういったような言葉は、もしかしたらすごくキャッチーでいいのかなというふうに思いました。

はい。先ほどからＲＥＣＮＡのポスターの話も出していただいてありがとうございます。実は今回、核軍拡が進んでいるという割と強いメッセージを表に出させていただきました。そういう意味では、今はっきりと核軍拡が進んでいるということを言い切ってしまって、その上でこの現実に我々は立ち向かっていくのだっていう決意を示すというかたちでも良いのかなというふうに思います。

最後も、若い世代へといった後半のメッセージの方はもう多くの委員がおっしゃられたことに私も賛成ですので、細かいことはございませんけれども、やはり、今本当に、長崎がですね、実は地球市民というキーワードで本当に2000年の頃から今のＳＤＧｓの話が出るもっと前からずっとですね、地球市民集会もそうですけれども、やはり長崎という地がその対話のハブであって、そして多くの市民が知恵と力を集めて発信してきたんだっていう、これは本当に世界にも他にない、言ってみればすごく長崎の誇るべきその市民の力の結集っていうところはですね、訴えてもいいのかなというふうに思いますので、今こんなことが進んでいますってことも、とても大事な情報なんですけれども、長崎の本当にこれまで担ってきた役割、そしてこれからもその地球市民とともに、被爆地という力を発揮していくんだっていうところの決意があって、もしかしたらその過去のことにも、対話の地としてのその被爆地というところを言及してもいいのかなというふうに思いました。はい。以上です。長くなりましたが、ありがとうございました。

委員

福田須磨子さんの詩は、これはもうほとんどこれ以上の詩はないんじゃないかというような原爆詩ですね。これは本当にいいんじゃないかと思います。先ほどおっしゃった方がおられましたけれども、詩人であるということをやっぱりしっかり言わないと、世界的にこれを聞いて詩人の福田須磨子さんということで理解していただいた方がより強く伝わるんじゃないかと思います。これと、「長崎を最後の被爆地に」という文言と、「ノーモア・ヒロシマ」以下の文言と、もう少しこの場所がいいのかどうか、よく検討していただければと思います。

やはり「ノーモア・ヒロシマ」以下の文章は最後の方に来た方が、すわりがいいんじゃないかなと思いました。「長崎を最後の被爆地に」というのは28行目からのところ

にもってきてもいいし、今のところで19行目の後にもってきてもいいじゃないかなと思いました。

それから22から27行目が現在の核情勢、世界の核情勢をしっかりまとめてあって、これで決して間違いじゃないんですけれども、例えば今、委員がおっしゃったような核軍拡が明らかに進行しつつあるというか、これは逆行性に今なっているわけですよね、核軍縮の方から言うとですね。ここはもう少し強調しないといけないんじゃないかなと思います。ここで３つの国の名前が出ているんですけども、やっぱり核保有国全体の傾向として核軍拡があるわけですから、やっぱりそこをきちんと言わないといけないということですね。そこに核の使用を示唆する政治家の言葉が今３つぐらい出てきているわけですね、アメリカの議員さんの「広島、長崎のように、やっぱり消してしまわないといけない」という、強烈な言葉が出てきたんですね。これを聞いたときですね、やっぱり僕は今の、オッペンハイマーの映画が扱った問題ですね、非常に効いてくるんじゃないかなと思うんですね。やっぱり福田須磨子さんの非人道性を訴えているということに対比できるような核兵器をつくった本人が、そこまで深く悩んでいた映画がアメリカという国から、核兵器国から初めて出てきたということは、大きいと思うんですね、世界的な核の廃絶運動の流れの中ではですね。そういうことで、やっぱり映画を平和宣言に使うというのは、少し僕も抵抗感はあるんですけども、やっぱりアメリカという核兵器国、日本に核を使った国の中でこういう動きが出たということは非常に重要な点だと思いますので、是非、ご検討いただければと思います。あとはですね、核軍拡をどういうふうに表現するか、国名を挙げるかどうかですね、中国が極端に増やしているわけですけれども、ここはそこまで踏み込まないで核兵器国全体の問題として、核軍拡に今流れている。これはもう基本的には国際安全保障の悪化ですね。そういうものを基本にしているわけですから、そういう問題としてここで指摘した方がいいんじゃないかな。要するに核抑止政策がやめられないと。核を利用することをやめられないという現状を指摘した方がいいんじゃないかなと思います。あとはですね、非常によくできていまして、もうこれでいいんじゃないかなと思うんですが、48から56行目の、若い世代が明らかに今、世界的に動きが出ていますよね。そういうところをやはり知らしめて、長崎でもそういう動きがあるんだということをですね、強く言っていくのは非常に大事じゃないかなと思うんです。やっぱり次世代が、これからの未来の、核なき世界を実現するということは、これはもう本当に究極の命題なんですよね。今ですね、日本政府がそれに対して、Ｇ７で岸田首相が、核のない世界を約束してもらったというように声高らかに訴え、宣言されたわけですけれども、それで何をするんですかと、何をしたんですか、とかいうところがないわけですよね。そこに若者の訴えが入ってくるわけで、具体的に、政治家が何をしているか、するかという、岸田首相がやってないんじゃないかというところを少し訴えた方が長崎の平和宣言としてはいいんじゃないかなと思います。以上です。

委員

非常によくまとめていただいて、ご苦労なさっただろうなというふうに思いつつですね、今回これ読んだときに、この冒頭の詩があまりにも力強くて立派なので、特にこの「原爆を作る人々よ、しばし手を休め、目を閉じたまえ」と始まったこの力がずっと読んだ後に消化不良で残っちゃうんですね。このトーンがどこかでリフレインされるか、どこかで受けるというようなかたちがほしいなと思いつつ、どうしたらいいのかっていうのが、答えが出てこなくて、完全に消化不良のまま理解が終わったというのが、正直なところ私の状況だったんですけれど、先ほどいろんな人の意見を聞いたり、特に委員が最後のところ、詩の最後のところを紹介されたりして、なんかやっぱり詩を活用する方法をもう一度考えたいなというふうに思いました。というか、かなりインパクトのある冒頭の詩だと思うので、それを受けるかたちのフレーズがどこか後の方にほしいというのは、非常に漠然とした、一般的な言葉にしかならないですけれど、それが一番大きな私の印象でした。内容的にはですね、ほぼ大きなことはないですけれども、22行目から27行目が、ここで書かれている言葉で言えば、「世界はますます危険な方向に向かっています」ということですが、その内容ですけれども、そういうふうに見たときに、やっぱり１つ核兵器、主たる核兵器国、核保有先進国というふうに言ってもいいかと思うんですけれど。その国が現有核兵器を全部すっかり入れ替えて新しいものにしようとしていて、結果として、21世紀末まで核兵器を持つというような姿勢を示している。そのために巨額の投資をしているっていうのが、現在進行かたちの非常に危機的な、話題の１つだと思うので、そのことは是非ともこの段落の中に入れてほしいな、というふうに思いました。例えばですけれども、25行目で、「それだけではなく」の次に、一方では、中国とか北朝鮮のことを述べて、他方では、その先進核保有国が巨額の投資をして、現有核兵器の一新を図っています、というようなことを、述べてはどうかというのが１点です。

それから、２つ目で内容的に少し引っかかったのは、41行目から47行目、ＳＤＧｓに触れている部分です。読んだときに、この44行目の言葉が非常に否定的に受け取れて、ちょっとまずいんじゃないかなというふうに思ったんですね。そのような人類の努力は核戦争の前には空しいものにすぎません。気持ちはわかるし、言っていることはそうだと思うんですけれども、先ほど市長さんが読まれたのを聞いていると、そんなには引っかからなかったんですけれど、やっぱり文章で読む人もだいぶんの人なので、その人たちにもうちょっとここの表現は、注意をした方がいいんではないか。つまり、ＳＤＧｓの努力が、核戦争が一旦起こってしまえば無に帰すと、そのとおりなんですけれど、そのことを一つひとつがやはり戦争を防ぐ努力でもあって、核戦争の引き金になるような入口ですね、入口になる戦争を避ける、というのがＳＤＧｓが、平和という側面から見たときの大きな役割だと思います。今年の９月にですね未来サミットの、前回のこの会議でも話題になっていましたけれども、国連の未来サミット

があるのに向かって事務総長が新しい平和アジェンダっていうのを出しているんですけれど、平和アジェンダで12個、レコメンデーションアクションですか、とにかく行動の勧告というのをやっているんですね。その第１項が核兵器をなくせ、ということで、これはかなり強い第１項なんですよ。それでその第４項に、ＳＤＧｓを完成させる、できるだけ早く完成させ、それは平和の文脈で言っているのは、あらゆる紛争の根源になる原因を絶つ、ということをそのＳＤＧｓを平和の文脈で整理しているわけですよね。だから、もちろんその過程で戦争が起これば全て無に帰すということなんですけれども、この表現をちょっと避けて、44行目は、「しかし、それには大前提があります。それは核戦争を起こさないことです。」というふうに言って、あとの文章に繋げるというふうにして、空しい云々っていうのはちょっと避けた方が良いのではないか、というふうに思いました。それからあとはちょっと細かい言葉の話で引っかかったのは、23行目のイスラエルを核保有疑惑国というふうに言う言葉なんですけれど、かつてそういうふうに分類することはあったんですけれど、イスラエルの核保有っていうのは、もうほとんど、その後のいろんな研究者の事実だ、というふうに受け止められているので、ちょっと今、核保有疑惑国っていうふうに言うのはどうかな、なかなかいい言葉がないんですけれど、別の言い方としては事実上の核保有国という言い方はしばしばされています。そこは１つ言葉として引っ掛かりました。

それから、41行目のここだけ、「世界中の皆さん」となっていて、皆さんというよりは私たちでいいんじゃないかと。次は私たちというふうになっているので、「世界中の私たちは」、という表現の方がいいのではないかと思います。それから先ほどから、何人もの方が言われたことで、「ノーモア・ヒロシマ　ノーモア・ナガサキ　ノーモア・ウォー」という言葉の置き場所っていうのはたしかに、他のどこかに、「長崎を最後の被爆地に」っていう言葉と共に置くのが、良いのではないかというふうに思います。37行目の「この地域の軍縮と緊張緩和」、これ逆の方がいいかなと、「緊張緩和と軍縮」、緊張緩和っていうのは色々なやり方があるのでとにかく対話というようなことになると思うんですけれど、順序を変えた方がいいというふうに思いました。以上です。

委員長

はい。どうもありがとうございました。皆様の一通りの意見をいただきまして、本当に皆様それぞれ貴重なご意見を賜りました。まず共通して福田須磨子さんの詩を採用したことについて皆様から評価をいただいているのではないか思います。その上で福田須磨子さんの詩を全体の中でどういうふうに位置づけていくか、どういうふうに基盤として活用していくかを含めて、いただいたご意見を踏まえながら改めて整理させていただきたいと思います。なにぶんにも全体の長さの制限もございますので、個別の意見に対してどこまで反映させていただくか調整させていただきます。改めて他の意見を聞きな

がら補足意見、追加意見などどなたかございませんか。委員、お願いします。

委員

ありがとうございます。私も各委員の皆様からのご意見をお聴きしまして本当にその通りだなと思いました。その中でとりわけ、先ほど委員がおっしゃったところで、44 行目にあります「しかし、そのような人類の努力は、核戦争の前には空しいものに過ぎません」というところだけ考えたことがあって、補足をさせていただけたらと思います。もしこの部分が気になるということでしたら、前後関係を変えるだけでいいのかなと思いました。例えば、「核兵器は、あるいは核戦争は、人類が積み重ねてきた努力を一瞬で破壊してしまいます」とか、そういう感じですね。そうしたら、今私たちが地球市民としてずっと地球で暮らしていけるように、ＳＤＧｓのことを考えながら、その達成に向けて人類共通で取り組んでいっている。けれども、「私たちが今、ずっと積み重ねてきた努力が全部、核兵器、核戦争で一瞬で破壊されてしまう」というような言い方になれば、私たちがやっている努力が全部核兵器で消えてしまうんだっていうショックを与えると同時に、私たちの努力を絶対に核兵器、核戦争で消してはならないという意識というか、決意を強めるものになるのではないかなと思いました。そこが例えば、先日の起草委員会でも申し上げたように、正しく「建設は死闘、破壊は一瞬」というニュアンスがかなり活きてくるのではないかと思います。もし、ここの部分をちょっとブラッシュアップするということであれば、「核兵器、核戦争は人類が積み重ねてきた努力を一瞬で破壊してしまう」というふうに前後関係を入れ替えるだけで、かなりいいものになるのではないかなと思いました。私からは以上です。

委員

26 行目になります。「核には核を」の考えのもと、これは現状では「通常兵器でも核を」ということを言っているわけですから、あえてここでは、こういう表現は使わない方がいいと思いますね。そこはむしろ危ない原因になっていますから。それと、詩の表現の仕方ですけれど、原点は現場をご覧になった被爆者の方々のメッセージだと思いますけれども、最後はやはり今生きている人たち、特に希望を担って動いている人たちを紹介することで未来に繋がる力を、そういう言葉に力を託さないと、原点で始まってまた原点に戻っているというのは、平和宣言としては違うのかなと私は思います。そこは自分たちの主張を先頭に、言葉を自分たちで編み出して考えているというのが今年の平和宣言のメッセージなんじゃないかと思いますけどね。

委員

これは文章に関係ないといえば関係ないかなと思うんですけれど、「地球市民フェス」若い人にっていうので、実はここ何日か前、私もびっくりしたことがあったんですよ。

びっくりというかな、私は、1 年生のときに原子爆弾で、6 年生で修学旅行があって、そしてお米を持ってこれない人は修学旅行に連れて行けませんと、伊良林小学校の時ですけれど、そういうのがあって、そしてみんなお米持ってきたか子どもに尋ねました。そして、「ううん」って言うから、「じゃあご飯ないね」という話からなって、「お米持って来られない人は、当時は闇米しかなかったのよ」って言ったんですよ。そしたら質問に出た言葉が、子どもがですね、「闇米ってなんですか」と聞いたんです。闇米だから、コシヒカリとかあきたこまちとか、そのようなお米の名前と思って聞いたんですね。だから私は家に帰って、今度は闇市というので調べてみました。合法じゃないね。そしたら、朝ドラで、来週出てきますけどもね、「虎の翼」で、私達は覚えてるんですよ。裁判に携わった人が、「闇物資は食べない」と、「自分が取り締まってるから闇物資は食べない」と、本当に栄養失調で亡くなった人がおられるんですよ。それは私が小学校の時でよく記憶に残っています。

だから「あの方は闇米も食べないで」という、そういうところに「闇米ってなんですか」っていう。だから、この市民フェスを立ち上げるときに、色々あるでしょうから、それこそ戦争中、戦後の食べ物そういうのもね、一緒に入れて、そして若い人で討論でもしてもらったらいいな、とちょっと思いました。

本当に「闇米ってなんですか」と聞かれたとき、びっくりしました。以上です。

委員

先ほど委員の方から、希望のメッセージということが出たんですけれども、福田須磨子は例えば「傷だらけの手」という詩の中で、やはり希望のメッセージを発しています。だから例えば、「最後に福田須磨子はこうも述べています」というかたちで、そういった希望のメッセージを紹介するということもありかなと思います。

委員長

はい、ありがとうございます。皆様のご意見で共通してあったのが、48 行目からのパラグラフの、若い世代の活動について記述を入れさせていただいたことについては、皆様からご評価をいただいたと思います。まさにここは希望の光ということで、ご意見をいただきましたけれども、この部分に関してご意見などございますか。委員お願いします。

委員

確かにそうでありまして長崎も含め、元々、ＩＣＡＮがノーベル平和賞を取ったときのスタッフも、本当にほとんどが 10 代、20 代というそういう組織で、ベアトリス・フィンさんが 30 代半ばだったかな、でもほとんどスタッフが 20 代のときで、まざまざと若者の力というものを感じたんですけれども、今長崎にいくつかの平和団体が、本当に

10 代、20 代の人たちが色々な取り組みを始めていますので、そういうのをいくつか紹介するようなことでもいいのかなと思いました。

委員

先ほども言いましたけれど、非常に思い入れが入って、だからこういう言葉になって、たくさん入ってしまっているんですよね。だから伝えるためには少しやっぱり表現の仕方を少し工夫した方がより伝わるというふうに思いました。

委員

ロシアとイスラエルのところで、23 から 25 行目ぐらいですけれど、核の話はある意味、王道かもしれませんが、終わりの方の 55 行目は、今度は戦闘の話、先ほど出てきたと思うんですが、あまりここで被害者への思いがないですよね。核兵器を使われなければいいという意地悪な質問が出るかもしれない言いぶりとも読めますので、少しこの戦闘そのものが残虐なんだというふうに加えた方がいいかなと思います。

委員

どこにどのようなかたちで入れるかちょっと具体的な案ではないんですけれども、やっぱりこの間、核実験被害がですね、核兵器禁止条約との関連でとりわけ大きく注目されている中で、やはりこれ 58 から 60 行目の最後で、「原子爆弾により亡くなられた」これはもちろん長崎としてそうなんですけれども、やっぱり核兵器被害で命を奪われ、そして心身ともに苦しみを負っている世界の人々というところに、何かやっぱりこの文章のどこかでは言及が必要かなというふうに思っているんですが、もし他の委員の方から良いお知恵があればというふうに思っております。

やはり、広島、沖縄、福島と名前が出るのも、もちろんそれはそれで理解ができることなんですけれど、やはりグローバルな連携というところが、言葉としては出てくるんですが、何かちょっと最後が内向きになっているような、ドメスティックな感じがどうしてもここでしてしまうので、「核と人類は共存できない」ということは、もちろん核兵器もそうですし、核というものがもたらした、あらゆる被害というところも含めて、我々長崎の人間はちゃんとそこに配慮しているし理解しているんだ、そして連帯の気持ちをもっているんだというところは、何かしらのかたちで明記されるのがいいと思っています。良いお知恵があればお願いします。

委員長

はい、ご意見ありがとうございます。最後の 58 行目から 60 行目の締めの部分で、どうしても被爆地、あるいは沖縄、福島に関するところが全面に出たというのがありますけれども、グローバルな核被害者の方との連携、そういったところが表現できないかと

いうご指摘でした。これについて何かご意見などございますか。

委員

35 行目のあたりで、核兵器禁止条約のことについて触れてあるんですが、この会議の中で話題になったのが、核実験被害のことだったんだと思うんですけれども、これと何かリンクできないかなと、ここに何かちょっと盛り込めたらいいのかなっていうふうに思いました。ビキニの被害は、日本もいわゆる第五福竜丸の被害がありますし、それからマーシャル関係の繋がりもありますから、何かそこに展開できないかなというふうにちょっと今まだ具体的な案は出せませんけど。

委員

国内のことを主に考えたために、広島、沖縄、福島となっているんですけど、今委員がおっしゃったのが、世界的には今は核実験によって被災された、被爆された方々の、核被害者という日本語に訳した言葉で、どうやって治療をしたり、生活を支援したりするかという核被害者支援のファンドを立ち上げるっていうのが最も重要な核兵器禁止条約の行動になっていますので、ちょっと世界的に視野を広げればここに核被害者という言葉を入れていくというのもいいと思います。

委員長

ありがとうございます。ほかに何かご意見ありますか。最後のパラグラフのところは今いただいたご意見を踏まえながら、グローバルな視点を入れられないか、我々の方で検討させていただきます。他に何かご意見などございませんでしょうか。委員お願いします。

委員

すいません。2 回目ありがとうございます。48 行目のところですね。「若い世代は核兵器のない世界に向けて既に動き始めています」のところでちょっと思ったことがありますので、追記させていただけたらなと思います。今いろんな若者の団体が出てきていて、かなり若者の平和活動というのを、取り上げられているなっていうのは私自身もすごく刺激をもらう一方ではあるんですが、若者たちは既に動いてきているということも私は同時に思っています。それこそ若者の団体の最初がいつか、わからないんですが、例えば高校生平和大使なんかは 1998 年ですか。というふうに、10 年、20 年前から若者は動いてきていると思います。そして、団体じゃなくても個人でやってきている人もいると思いますし、20 年前 10 年前は若者だった人は、今もう当然 30 代 40 代とかになってきていると思うんですが、そういう意味ではもう若い世代は常に、いや既に動き出していたというようなふうに私は思うのですね。そこでどういう団体が動いているかとい

うところを明記することは、彼らにとってすごく希望を与えると思うのと同時に、あとは団体を挙げるというよりかは、活動内容の紹介とかに留めておいた方がこういう活動があるんだな、自分もやってみようというふうな気になったりとか、そういうふうなヒントになるんじゃないかなと思いました。私から以上です。

委員

すいません、ちょっと言わずもがな、この 59 行目の福島の記載のところなんですけれどね、この位置付けをどうするかっていうご議論があってると思うんですけど、やっぱりこの平和宣言の中では、核兵器で反対ということは絶対言わないといけないんですけれども、いわゆる核の原子力発電とかですね、その分野のところまで反対とかっていうことを踏み込んでいくとですね、それはちょっといろんな反応が出てくるというふうに思いますので、やはり平和宣言の中では、そこはあまり触れない方が私は良いんだろうな、あの原発については色々意見があるわけですから、そこをしっかり切り分けた方がいいんじゃないかなという感じがいたします。

委員

委員のおっしゃったことと関係するんですけれど、若い世代をあえて取り出しちゃうと、被爆者との間にいろんな世代がいるわけですよね。そうすると、もう高校生平和大使の方も 30 代の方がいる。やがて 40 代にもなると続けてらっしゃる人がいるので、そういう新しい世代が再生産されているっていうかね、活動世代が今増えているということが大事なんじゃないかなと。あんまり若い人たちばっかり言うと、私もよく言われるんですが若い人たちばっかり名指ししないで、というふうに若い人に言われますから、そこも含めてそんなふうに思いました。

委員

そうですね、わたしも委員の部分に加えて、やっぱりさっき委員もおっしゃっていましたけれども、若い人だけじゃなくてグローバルな連携もありますし、この知恵を結集させて考えながら、平和をつくる人っていうのがどんどん再生産、新しく出てきていてそれが平和の文化だったり、平和の空間だったりっていうのを結果的につくっているっていうようなふうにまとまると、この部分が 48 行目から 52 行目が当てはまるのではないかなというふうに感じました。以上です。

委員

簡単な補足なんですけれども、福島の扱いですね、過去の宣言文を今日来る前に読み直してみたんですけれども、書き方として、例えば最近では 2022 年に福島のことを書いているとき、似ている表記なんですけれども、「長崎は広島、そして放射能の被害を

受けた福島とつながり、平和を築く力になろうとする世界の人々との連帯を広げながら」というような書き方になっていて、それがいいというわけではないんですが、先ほど原発政策の是非という話というよりも、その放射能の被害というところに焦点を当てているんだということを、多分この文章で補足しているという理解をしているので、そういったことであれば、色々な誤解や波紋を生まずにですね、福島のことを言及するのは可能かなというふうに過去の例を見て思いました。以上です。

委員長

ご意見ありがとうございます。今、委員から補足説明をいただきましたとおり、これまで平和宣言文の中で福島について言及をさせていただいたのは、放射能被害を受けたまちとの共感、連帯という意味で取り上げさせていただいておりまして、原発政策という観点で取り上げているわけではございませんので、そこは伝わるかたちで福島のところの表現は色々と考えさせていただきます。ありがとうございました。委員、お願いします。

委員

ちょっとこれまでも言ったことですけれども、原爆が何なのかといいますか、世界に知らない人にも発信する以上はですね、79年前の戦争で米国が投下した原爆によって、という誰が投下しているのかというところはですね、私はいるんじゃないかなと思います。知らない人が読むと、やはり、なんで落ちてきたというところの、やはり戦争中にですね、米国が日本に投下した原爆、これについて今我々は考えているというところはいるのかなと。ちょっと個人的な意見ですけれども、そう思います。

委員長

はい、ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。非常に活発なご意見をいただきまして、次回、よりよい宣言文案を作成するための貴重なインプットをいただいたと思います。意見が出尽くしておりますので、今日は起草委員会を終了したいと思います。